

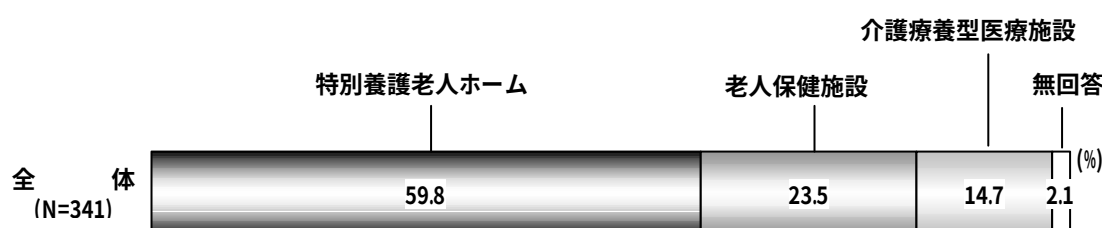
3 介護保険施設サービス利用者調査

(1) 基本属性

① 入所している施設

入所している施設は「特別養護老人ホーム（59.8%）」が最も多く6割を占め、次いで「老人保健施設（23.5%）」、「介護療養型医療施設（14.7%）」の順である（図表3-1-1）。

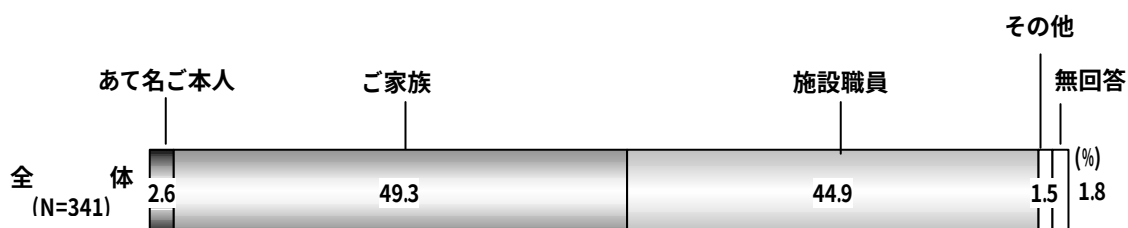
図表3-1-1 入所している施設（全体）



② 記入者（F1）

調査票への記入者は、「ご家族（49.3%）」が最も多く、次いで「施設職員（44.9%）」となり、これら2つをあわせると全体の94.2%である（図表3-1-2）。

図表3-1-2 記入者（全体）



③ 性別（F 2）

性別は、「男性」が22.6%、「女性」が76.2%であり、「女性」が圧倒的に多くなっている（図表3-1-3）。

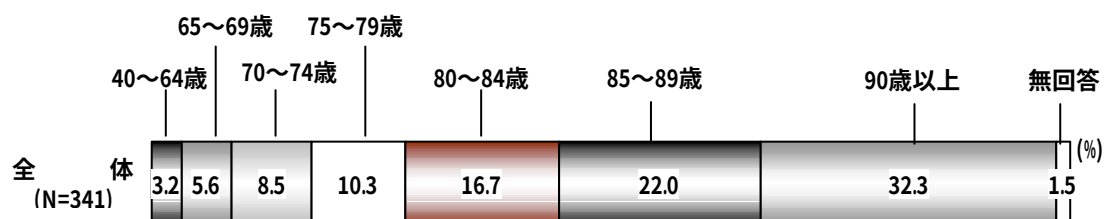
図表3-1-3 性別（全体）



④ 年齢（F 3）

年齢については、「90歳以上（32.3%）」が最も多く、次いで「85～89歳（22.0%）」、「80～84歳（16.7%）」の順である。これら3つをあわせると、全体の71.0%にのぼる（図表3-1-4）。

図表3-1-4 年齢（全体）



⑤ 入院・入所期間（F 4）

入院・入所期間については、「5年以上(26.1%)」が最も多く、「3年以上5年未満(19.9%)」、「1年以上2年未満(15.8%)」の順である。3年以上があわせて46.0%と半数近くを占めている（図表3－1－5）。

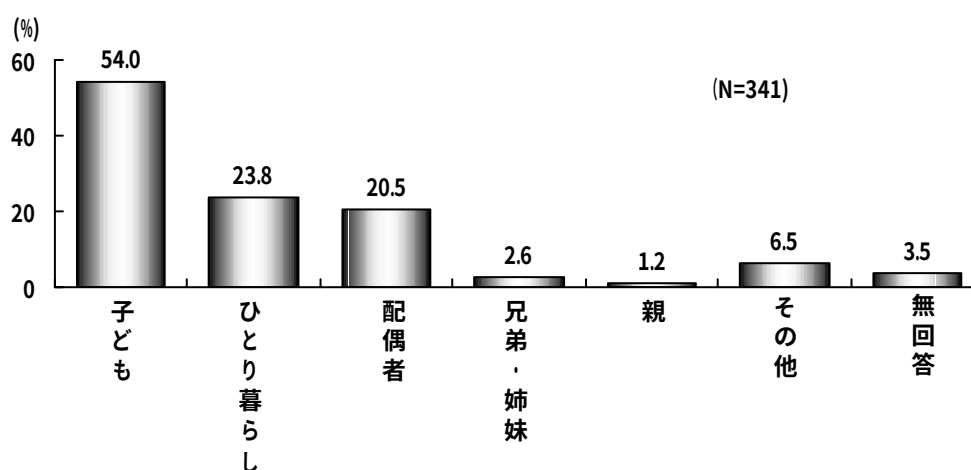
図表3－1－5 入院・入所期間（全体）



⑥ 家族構成（F 5）

施設に入所する前の家族構成については、「子ども(54.0%)」が最も多く、次いで「ひとり暮らし(23.8%)」、「配偶者(20.5%)」の順である（図表3－1－6）。

図表3－1－6 家族構成（全体／複数回答）



⑦ 同居者の年齢（F 5－1）

同居家族がいる場合、同居者の年齢については、「64 歳以下の同居者がいる」が 43.1%、いわゆる老々世帯である「同居者全員が 65 歳以上」が 21.0%となっている（図表 3－1－7）。

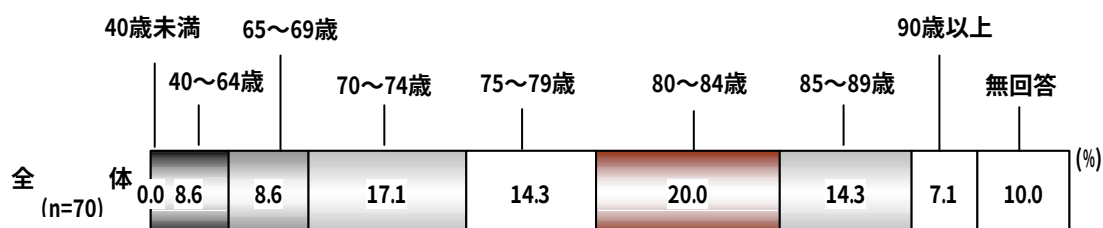
図表 3－1－7 同居者の年齢
＜ひとり暮らし以外と回答した人＞（全体）



⑧ 配偶者の年齢（F 5－2）

配偶者がいる場合、配偶者の年齢については、「80～84 歳（20.0%）」が最も多く、次いで「70～74 歳（17.1%）」、「75～79 歳（14.3%）」の順である（図表 3－1－8）。

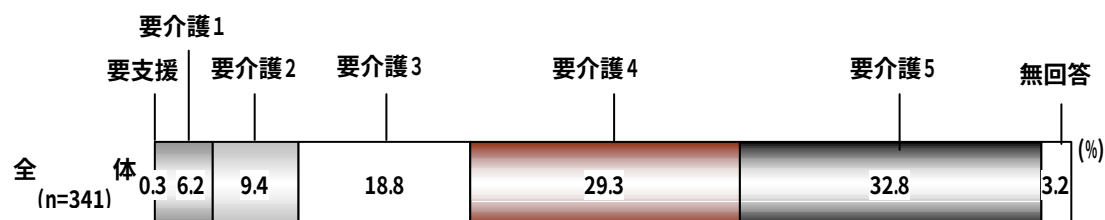
図表 3－1－8 配偶者の年齢
＜配偶者と回答した人＞（全体）



⑨ 要介護度（F 6）

要介護度については、「要介護 5（32.8%）」、「要介護 4（29.3%）」、「要介護 3（18.8%）」の順に多くなっている。これら 3 つをあわせると、全体の 80.9%になる（図表 3－1－9）。

図表 3－1－9 要介護度（全体）



(2) 身体状況

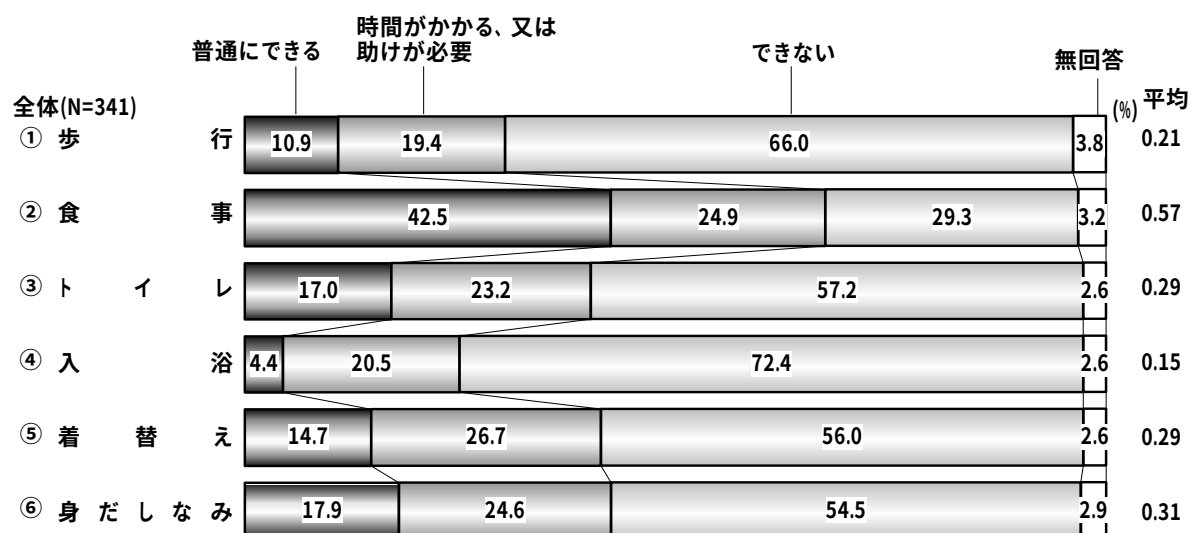
① 日常生活動作（問1）

基本的な日常生活動作については、『食事』では「普通にできる」割合が42.5%と高いが、その他の項目では「できない」が多く、特に『入浴（72.4%）』、『歩行（66.0%）』でその割合が高くなっている。それぞれの項目の回答を「普通にできる（1点）」、「時間がかかる、又は助けが必要（0.5点）」、「できない（0点）」で代表させた平均値（加重平均値）でみると、『食事』は最も高く0.57、『入浴』は最も低く0.15である。

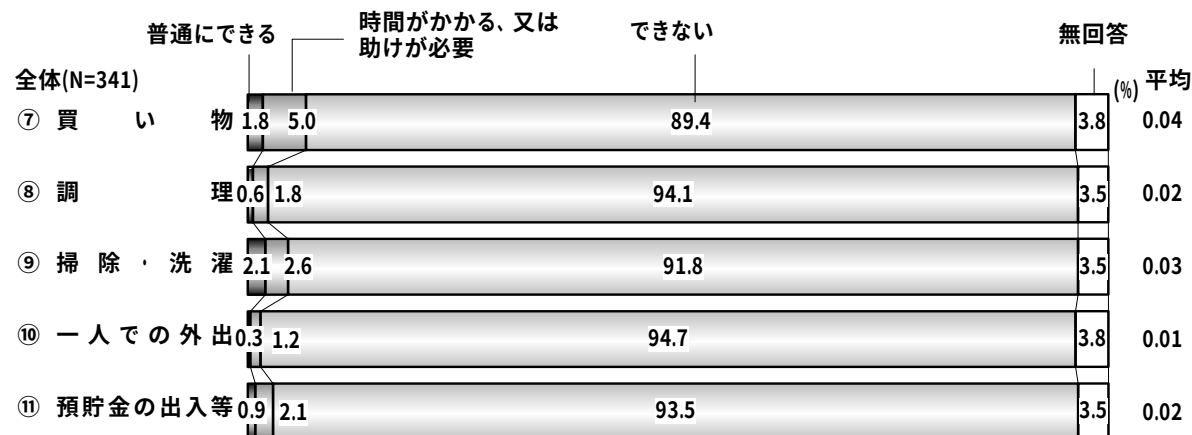
生活に必要な日常生活動作については、すべての項目で「できない」が8割以上と圧倒的に多く、加重平均値も0.05未満と低くなっている（図表3-2-1）。

図表3-2-1 日常生活動作（全体）

〔基本的な日常生活動作〕



〔生活に必要な日常生活動作〕

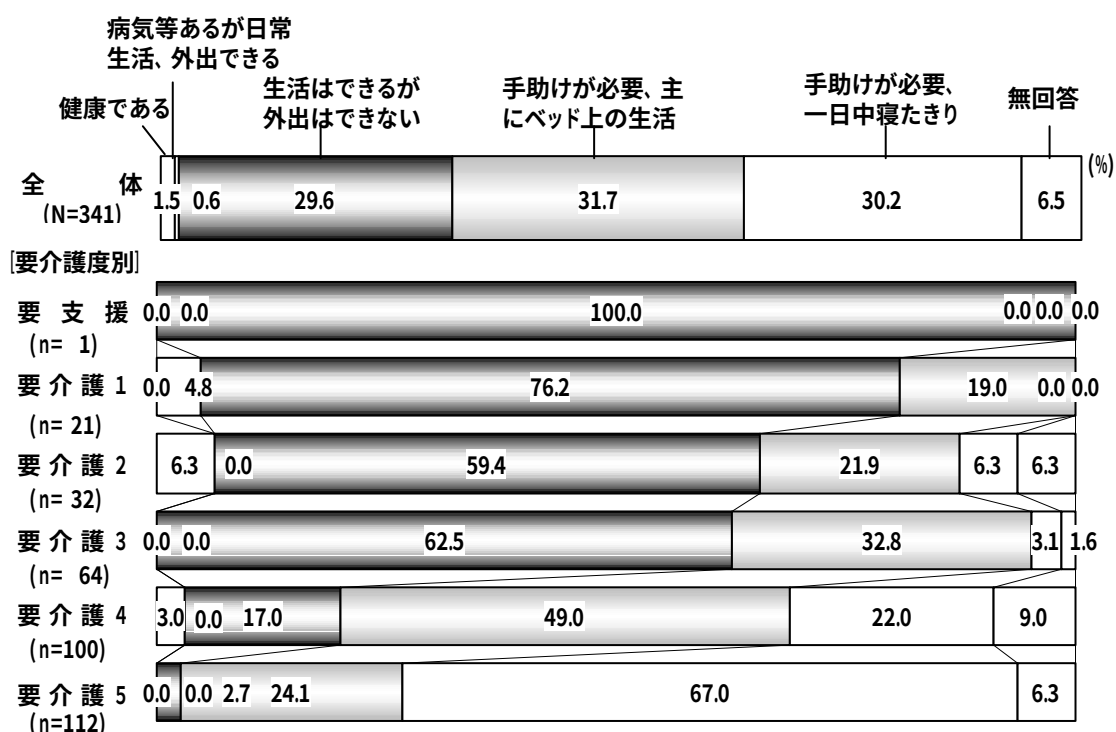


② 健康状態（問2）

健康状態については、「手助けが必要、主にベッド上の生活（31.7%）」が最も多く、「手助けが必要、一日中寝たきり（30.2%）」、「生活はできるが外出はできない（29.6%）」が続いている。これら3つをあわせると、全体の91.5%になる。

要介護度別にみると（要支援は1サンプルのため分析から除く。以下同様）、要介護4までは要介護度が重くなるにつれ「手助けが必要、主にベッド上の生活」が多くなる。要介護5では「手助けが必要、一日中寝たきり」が67.0%を占めている（図表3-2-2）。

図表3-2-2 健康状態（全体、要介護度別）

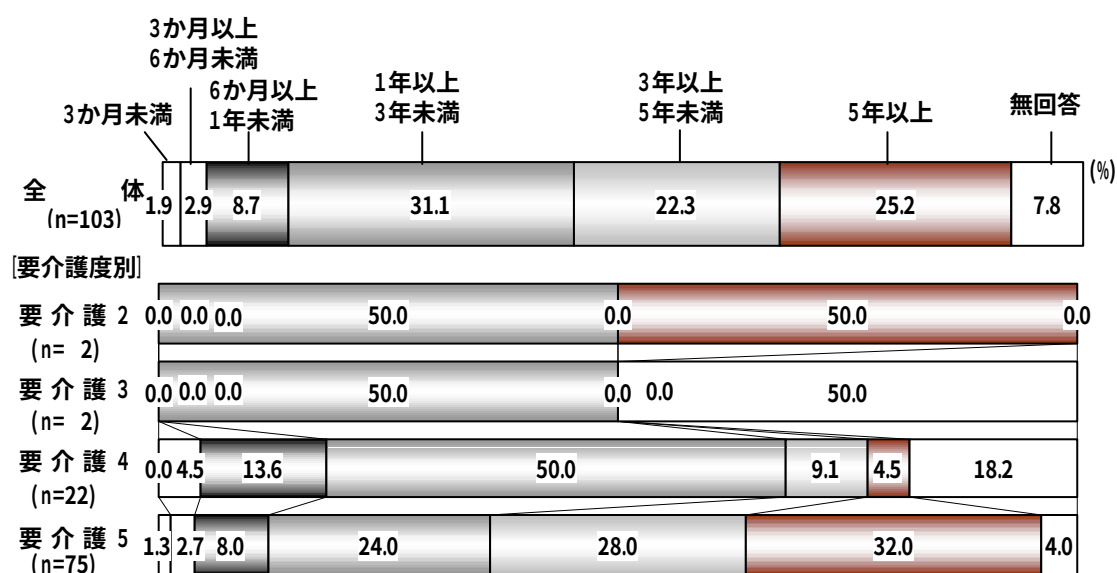


③ 寝たきりの期間（問2-1）

寝たきりの場合の期間については、「1年以上3年未満（31.1%）」が最も多く、次いで「5年以上（25.2%）」、「3年以上5年未満（22.3%）」の順である。これら3つをあわせると、全体の78.6%になる。

要介護度別にみると、要介護4では「1年以上3年未満（50.0%）」が、要介護5では「5年以上（32.0%）」が最も多く、要介護度が重くなるほど寝たきりの期間が長くなっている（図表3-2-3）。

図表3-2-3 寝たきりの期間
＜手助けが必要、一日中寝たきりの人＞（全体、要介護度別）



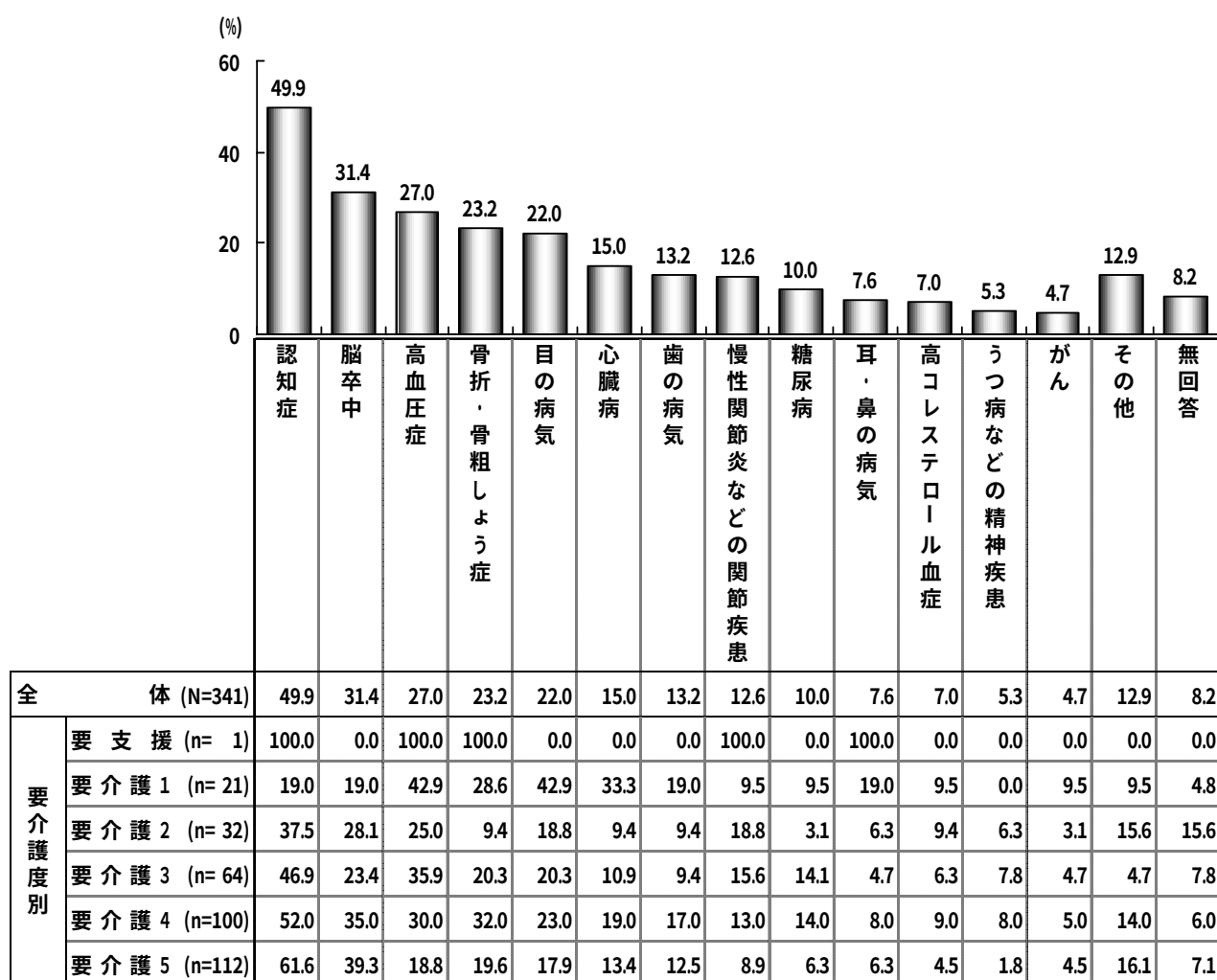
※要支援、要介護1については、回答がなかったためグラフから削除している。

④ 病歴（問3）

病歴については、「認知症（49.9%）」が最も多く、「脳卒中（31.4%）」、「高血圧症（27.0%）」の順である。

要介護度別にみると、要介護1では「高血圧症」と「目の病気」が同率 42.9%で最も高い。要介護2以上では「認知症」が最も多く、要介護度が重くなるにしたがって「認知症」の割合も多くなっている（図表3-2-4）。

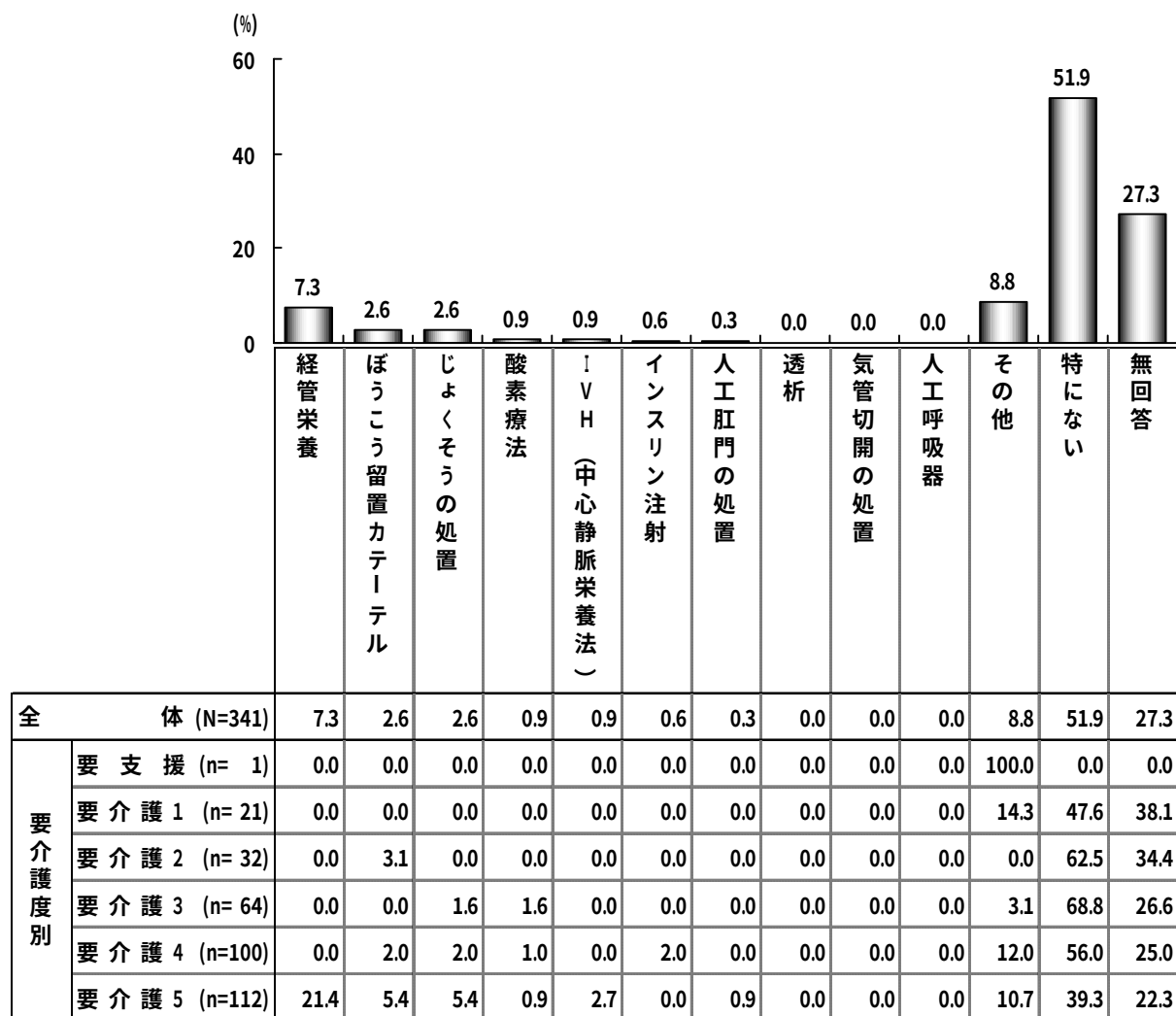
図表3-2-4 病歴（全体、要介護度別／複数回答）



⑤ 医療処置（問4）

現在受けている医療処置については、「特にない（51.9%）」が最も多いが、それ以外では「経管栄養（7.3%）」、「ぼうこう留置カテーテル（2.6%）」、「じょくそうの処置（2.6%）」などがあげられている（図表3-2-5）。

図表3-2-5 医療処置（全体、要介護度別／複数回答）

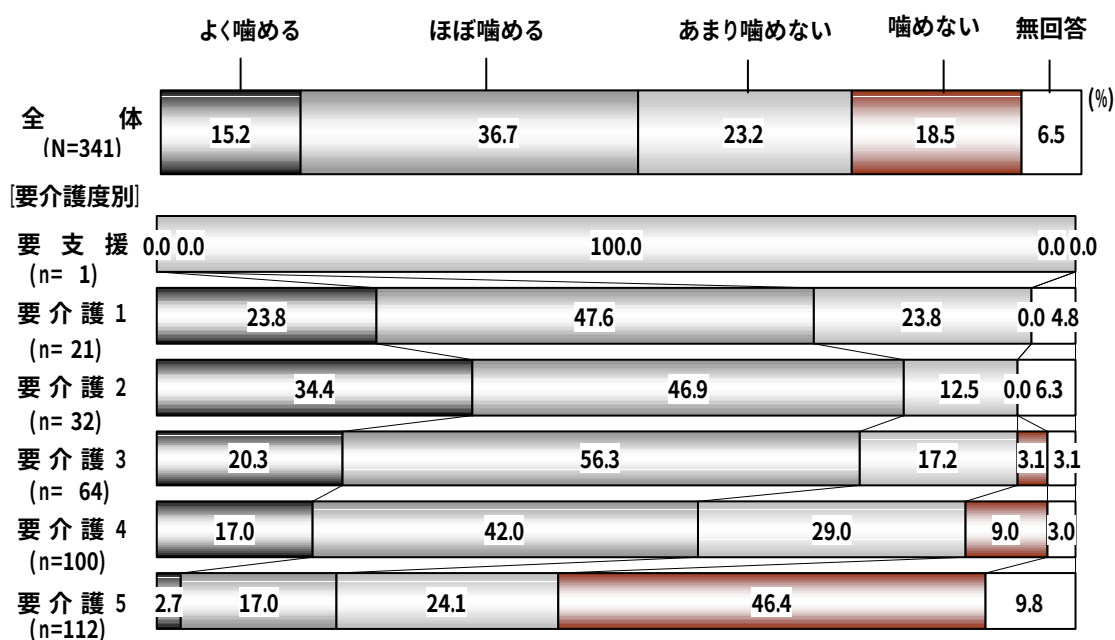


⑥ 咀嚼の程度（問5）

咀嚼の程度については、「ほぼ噛める（36.7%）」が最も多く、次いで「あまり噛めない（23.2%）」、「噛めない（18.5%）」が続いている。「よく噛める（15.2%）」と「ほぼ噛める（36.7%）」をあわせると 51.9%、「あまり噛めない（23.2%）」と「噛めない（18.5%）」をあわせると 41.7%となっている。

要介護度別にみると、要介護1～4では噛める割合が半数以上と多いが、要介護度が重くなると噛める割合が減り、要介護5では噛めない割合が70.5%となる（図表3－2－6）。

図表3－2－6 咀嚼の程度（全体、要介護度別）

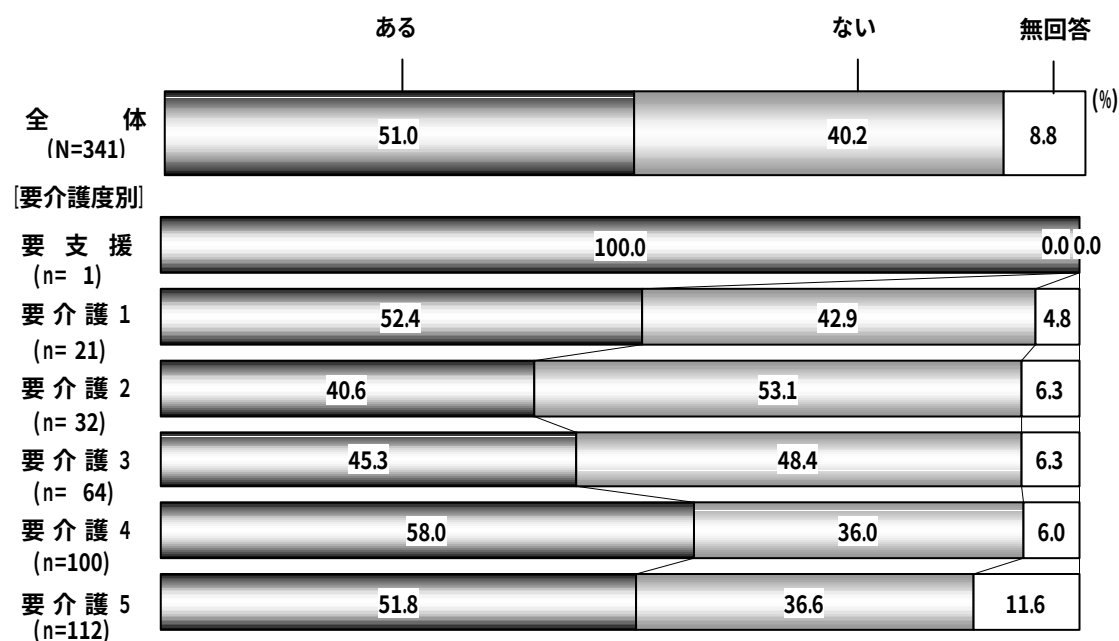


⑦ 口腔ケア（歯みがき指導等）の有無（問6）

口腔ケア（歯みがき指導等）を受けたことがあるかをたずねたところ、「ある（51.0%）」が「ない（40.2%）」を上回っている。

要介護度別にみると、要介護1、要介護4、要介護5では「ある」が5割以上となっている（図表3-2-7）。

図表3-2-7 口腔ケア指導の有無（全体、要介護度別）

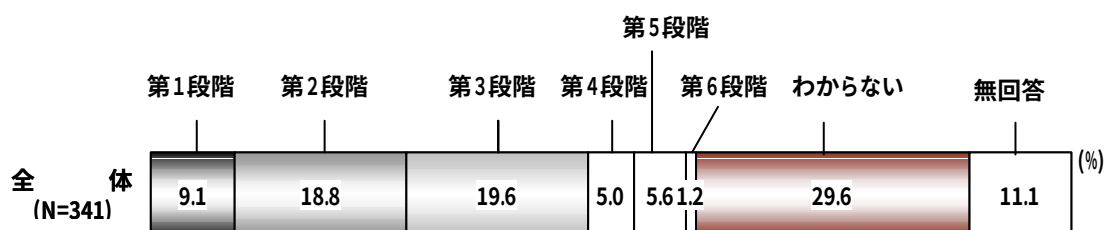


(3) 介護保険制度に関する考え方

① 保険料段階（問7）

保険料段階については、「わからない（29.6%）」が最も多くなっているが、それ以外では「第3段階（19.6%）」、「第2段階（18.8%）」が多い（図表3－3－1）。

図表3－3－1 保険料段階（全体）



② 介護保険サービスと保険料についての考え方（問8）

介護保険サービスと保険料についての考え方については、「どちらともいえない(36.7%)」が最も多く、次いで「今くらいが妥当(31.4%)」、「保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい(12.0%)」の順である。

保険料段階別にみると（第6段階は4サンプルのため分析から除く。以下同様）、第1段階、第3段階、第4段階では「今くらいが妥当」が、第2段階では「どちらともいえない(54.7%)」が最も多くなっている。第5段階では「保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい」が全体と比べて多い（図表3-3-2）。

図表3-3-2 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体、保険料段階別）

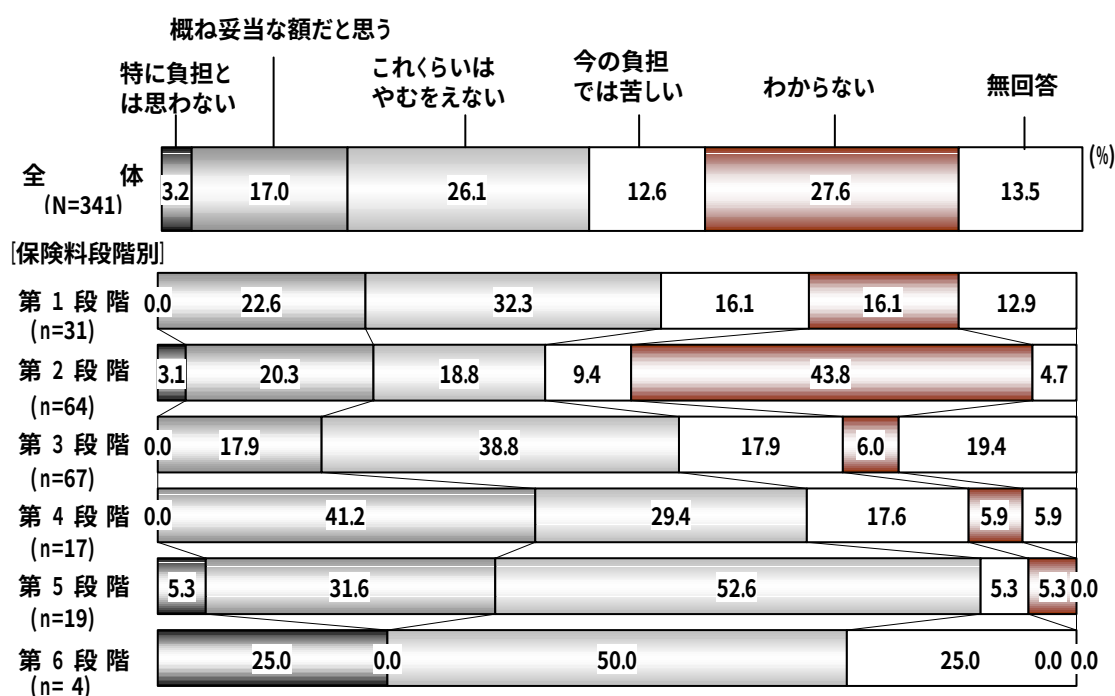
	保険料が高くなってもサービスが充実している方がよい	今くらいが妥当	サービスを抑えても保険料が低い方がよい	どちらともいえない	無回答	(%)
全 体 (N=341)	12.0	31.4	5.0	36.7	15.0	
[保険料段階別]						
第1段階 (n=31)	16.1	45.2	6.5	19.4	12.9	
第2段階 (n=64)	10.9	26.6	3.1	54.7	4.7	
第3段階 (n=67)	11.9	49.3	6.0	13.4	19.4	
第4段階 (n=17)	5.9	64.7	11.8	17.6	0.0	
第5段階 (n=19)	26.3	36.8	5.3	26.3	5.3	
第6段階 (n=4)	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	

③ 施設利用料の費用についての負担感（問9）

施設利用料の費用についての負担感については、「わからない（27.6%）」が最も多く、次いで「これくらいはやむをえない（26.1%）」、「概ね妥当な額だと思う（17.0%）」が続いている。

保険料段階別にみると、第1段階、第3段階、第5段階では「これくらいはやむをえない」が、第2段階では「わからない（43.8%）」が、第4段階では「概ね妥当な額だと思う（41.2%）」が最も多くなっている（図表3-3-3）。

図表3-3-3 施設利用料の費用についての負担感（全体、保険料段階別）

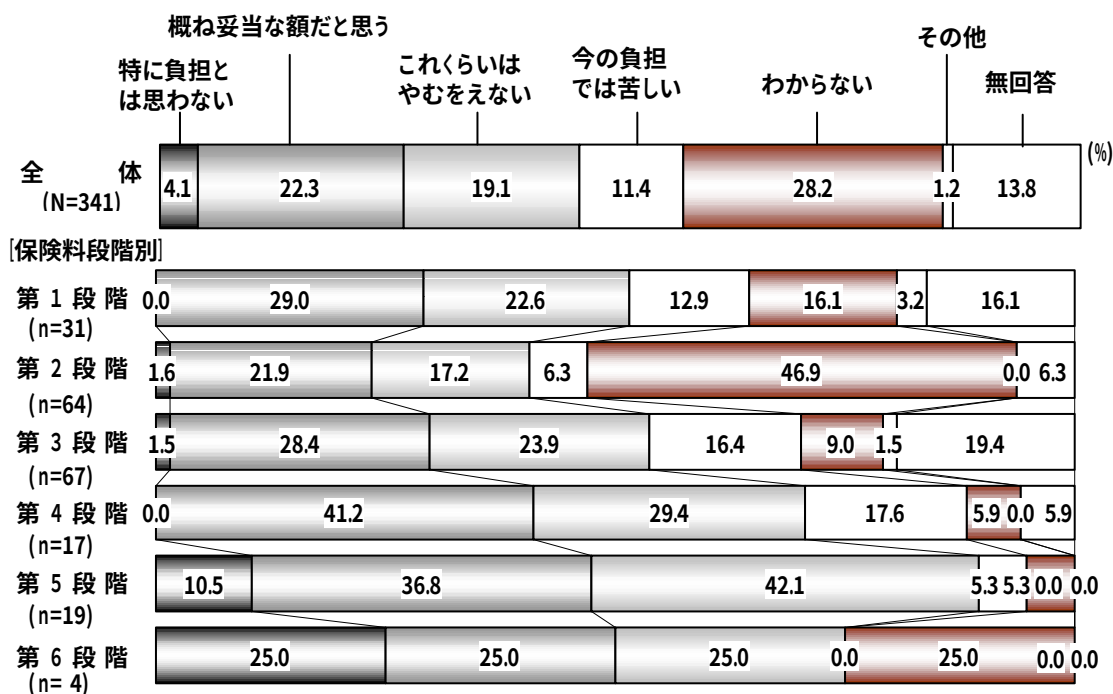


④ 利用料以外の費用についての負担感（問 10）

利用料以外の食事代、日常生活費（消耗品など）の負担感については、「わからない（28.2%）」が最も多く、次いで「概ね妥当な額だと思う（22.3%）」、「これくらいはやむをえない（19.1%）」の順である。

保険料段階別にみると、第1段階、第3段階、第4段階では「概ね妥当な額だと思う」が、第2段階では「わからない（46.9%）」が、第5段階では「これくらいはやむをえない（42.1%）」が最も多くなっている（図表3-3-4）。

図表3-3-4 その他の費用についての負担感（全体、保険料段階別）



⑤ 居住費徴収についての考え方（問 11）

居住費徴収についての考え方については、「何ともいえない（36.1%）」が最も多く、「これ以上の負担は苦しい（26.4%）」、「ある程度はやむを得ない（18.2%）」が続いている。

保険料段階別にみると、第1段階、第4段階では「これ以上の負担は苦しい」が、第2段階、第3段階では「何ともいえない」が最も多くなっている。第5段階では「ある程度はやむを得ない」と「これ以上の負担は苦しい」が同率 36.8%で並んでいる（図表3-3-5）。

図表3-3-5 居住費徴収についての考え方（全体、保険料段階別）

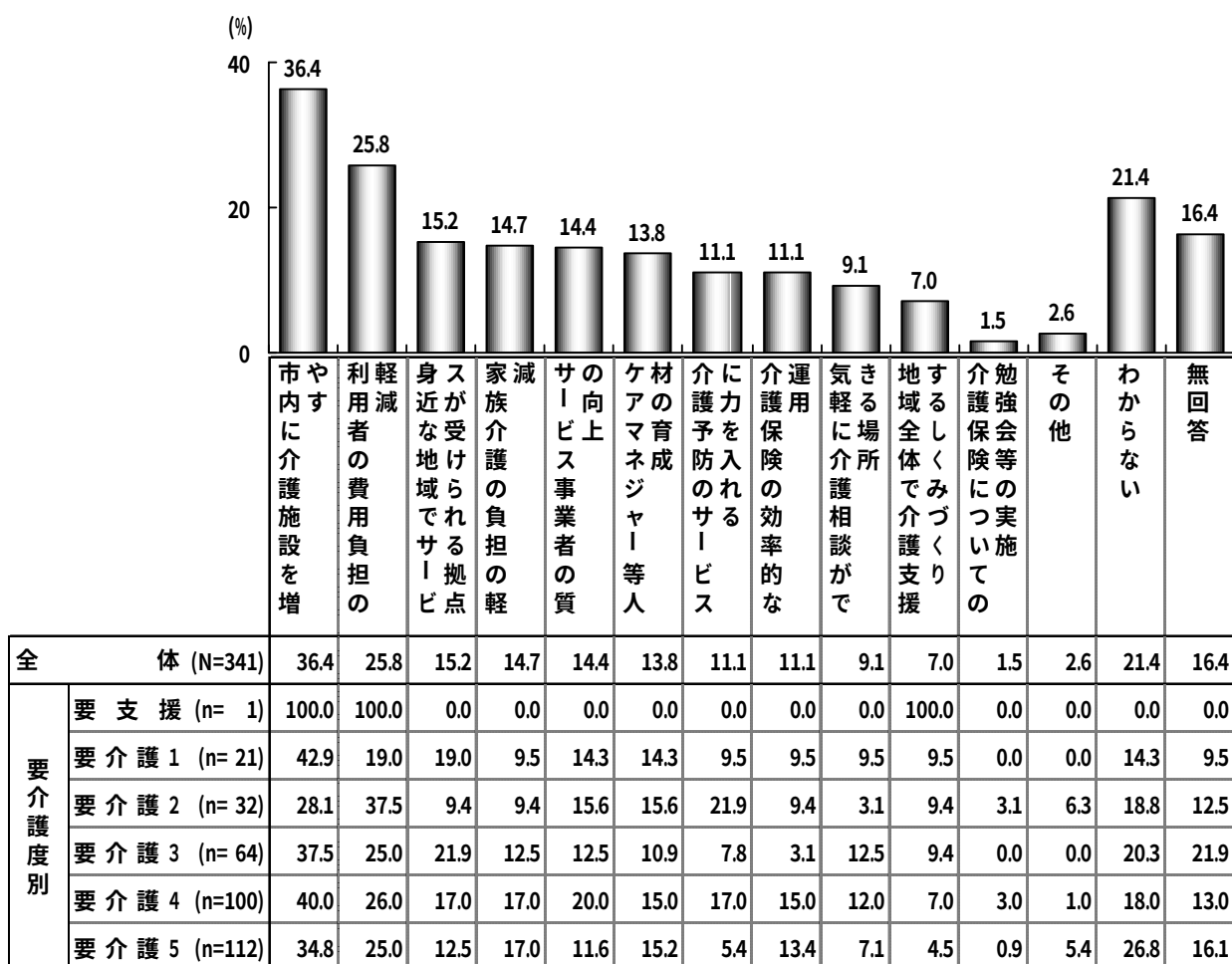
	ある程度は やむを得ない	これ以上の 負担は苦しい	何ともいえない	その他	無回答	(%)
全 体 (N=341)	18.2	26.4	36.1	1.8	17.6	
[保険料段階別]						
第 1 段 階 (n=31)	19.4	32.3	19.4	9.7	19.4	
第 2 段 階 (n=64)	18.8	21.9	51.6	0.0	7.8	
第 3 段 階 (n=67)	17.9	26.9	29.9	0.0	25.4	
第 4 段 階 (n=17)	11.8	41.2	35.3	0.0	11.8	
第 5 段 階 (n=19)	36.8	36.8	21.1	0.0	5.3	
第 6 段 階 (n= 4)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	

⑥ 介護保険制度の改善策（問 12）

介護保険制度の改善策については、「市内に介護施設を増やす（36.4%）」が最も多く、次いで「利用者の費用負担の軽減（25.8%）」、「身近な地域でサービスが受けられる拠点（15.2%）」となっている。

要介護度別にみると、要介護1、要介護3～5では「市内に介護施設を増やす」が、第2段階では「利用者の費用負担の軽減（37.5%）」が最も多くなっている。全体と差があるものは、第2段階の「介護予防のサービスに力を入れる（21.9%）」で、10ポイント以上高くなっている（図表3-3-6）。

図表3-3-6 介護保険制度の改善策（全体、要介護度別／複数回答）



(4) 施設での生活・サービスについて

① 入所・入院している部屋の定員（問 13）

入所・入院している部屋の定員については、「四人部屋（61.0%）」が圧倒的に多く、「一人部屋（13.8%）」、「二人部屋（10.0%）」の順である（図表 3－4－1）。

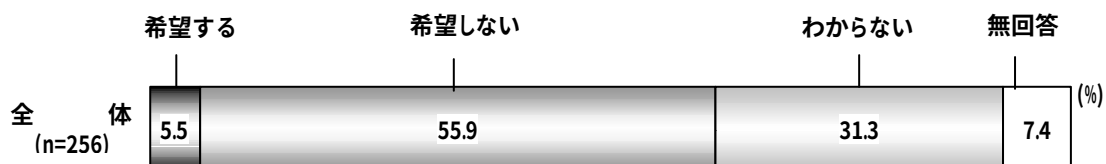
図表 3－4－1 入所・入院している部屋の定員（全体）



② 個室の希望（問 13－1）

一人部屋以外の場合、個室の希望についてたずねたところ、「希望しない（55.9%）」が半数を超え最も多い。次いで「わからない（31.2%）」となっている（図表 3－4－2）。

図表 3－4－2 個室の希望
＜一人部屋以外と回答した人＞（全体）

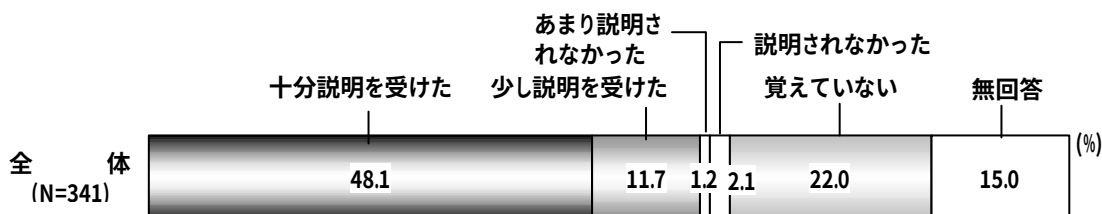


③ 入所時の重要事項の説明に対する評価（問 14）

入所時に施設の運営方針や費用などの重要事項について説明が行われたかをたずねた。

「十分説明を受けた（48.1%）」が最も多く、次いで「覚えていない（22.0%）」、「少し説明を受けた（11.7%）」が続いている（図表 3－4－3）。

図表 3－4－3 入所時の重要事項の説明に対する評価（全体）



④ 入所時のわかりやすい説明に対する評価（問 15）

生活するために必要になるサービスなどについて、理解できるような詳しい説明が行われたかをたずねた。

「十分説明を受けた（39.6%）」が最も多く、次いで「覚えていない（25.2%）」、「少し説明を受けた（13.2%）」の順である（図表 3－4－4）。

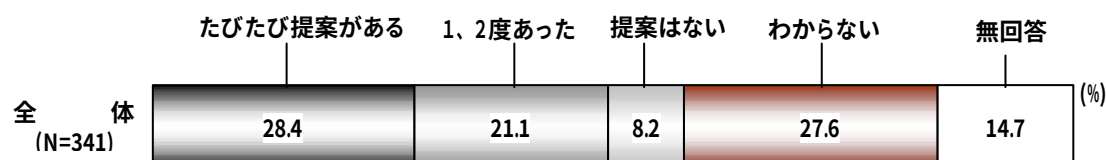
図表 3－4－4 入所時のわかりやすい説明に対する評価（全体）



⑤ サービスに対する提案の有無（問 16）

サービスに対する提案の有無については、「たびたび提案がある（28.4%）」が最も多く、次いで「わからない（27.6%）」、「1、2度あった（21.1%）」の順である（図表3-4-5）。

図表3-4-5 サービスに対する提案の有無（全体）



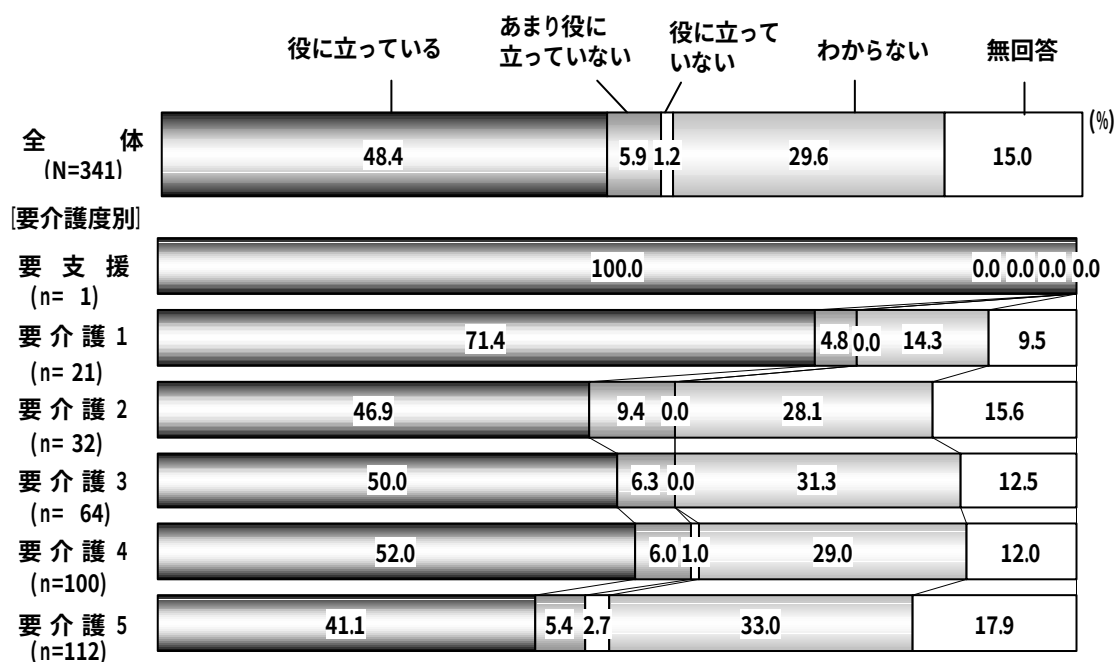
⑥ サービス利用後の変化（問 17）

施設でのサービスがからだの状況が悪化しないように、あるいは改善に役立っているかをたずねた。

「役に立っている（48.4%）」が約5割で最も多く、次いで「わからない（29.6%）」、「あまり役に立っていない（5.9%）」となっている。

要介護度別にみると、要介護1では「役に立っている（71.4%）」が圧倒的に多い。要介護2以上でも「役に立っている」が5割前後と多く、「わからない」が3割前後が続いている（図表3-4-6）。

図表3-4-6 サービス利用後の変化（全体、要介護度別）



⑦ サービスの満足度、不満な理由（問 18）

サービスへの満足度をたずねたところ、すべてのサービスにおいて「ふつう」が最も多く、「満足」が続いている。

それぞれの項目の回答を「満足（5点）」、「やや満足（4点）」、「ふつう（3点）」、「やや不満（2点）」、「不満（1点）」で代表させた平均値（加重平均値）でみると、『入浴』は最も高く 3.87、『機能訓練』は最も低く 3.42 となっている（図表 3－4－7－①）。

図表 3－4－7－① サービスへの満足度（全体）

		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	平均 (%)
全体(N=341)								
① 食	事	28.4	13.5	34.3	2.9	1.8	19.1	3.79
② 入	浴	29.3	16.1	32.6	2.6	0.6	18.8	3.87
③ トイレ・排泄		27.6	12.0	37.2	3.2	0.6	19.4	3.78
④ 機能訓練		16.7	11.4	37.8	6.2	3.5	24.3	3.42
⑤ 必要な医療の実施		22.6	11.4	41.1	3.2	0.9	20.8	3.65
⑥ 看護		23.5	11.7	41.6	2.6	0.6	19.9	3.68
⑦ 健康管理、栄養上の管理		25.2	13.5	39.3	0.9	0.9	20.2	3.77

サービスが「やや不満」、「不満」の場合の理由についてたずねた。

『食事』、『必要な医療の実施』、『看護』、『健康管理、栄養上の管理』については、「個人的な希望が受け入れられない」が1位にあげられている。『入浴』では「職員の対応がよい」（27.3%）」が、『トイレ・排泄』と『機能訓練』では「利用できる回数や時間が足りない」が1位である（図表3-4-7-②）。

図表3-4-7-② サービスに不満な理由
 <サービスにやや不満、不満とを感じる人>（全体／複数回答／上位5位まで）

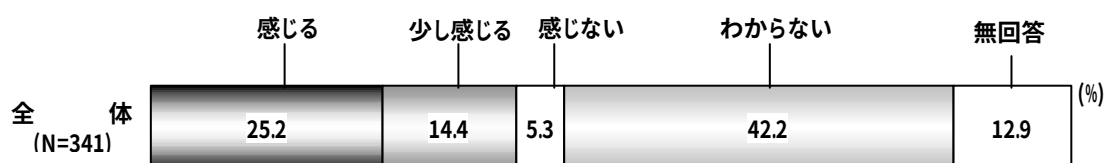
(%)

	1位	2位	3位	4位	5位
① 食 事 (n=16)	個人的な希望が受け入れられない 31.3	質がよい 18.8	利用できる回数や時間が足りない／職員の対応がよい 6.3	—	—
② 入 浴 (n=11)	職員の対応がよい 27.3	利用できる回数や時間が足りない／質がよい 18.2	個人的な希望が受け入れられない 9.1	—	—
③ トイレ・排泄 (n=13)	利用できる回数や時間が足りない 30.8	職員の対応がよい／個人的な希望が受け入れられない 23.1	技術的に不安を感じる 15.4	質がよい／施設からの説明が不十分である 7.7	—
④ 機能訓練 (n=33)	利用できる回数や時間が足りない 33.3	質がよい／個人的な希望が受け入れられない 9.1	施設からの説明が不十分である 6.1	技術的に不安を感じる／職員の対応がよい 3.0	—
⑤ 必要な医療の実施 (n=14)	個人的な希望が受け入れられない 21.4	利用できる回数や時間が足りない／施設からの説明が不十分である 14.3	—	—	—
⑥ 看 護 (n=11)	個人的な希望が受け入れられない 27.3	技術的に不安を感じる 18.2	利用できる回数や時間が足りない 9.1	—	—
⑦ 健康管理、栄養上の管理 (n=6)	個人的な希望が受け入れられない 50.0	契約の内容とサービスが違っている 16.7	—	—	—

⑧ プライバシーへの配慮（問 19）

プライバシーへの配慮については、「わからない（42.2%）」が最も多くなっているが、それ以外では、「感じる（25.2%）」、「少し感じる（14.4%）」の順である。プライバシーへの配慮がなされていると感じる割合はあわせて 39.6%になる（図表 3－4－8）。

図表 3－4－8 プライバシーへの配慮（全体）

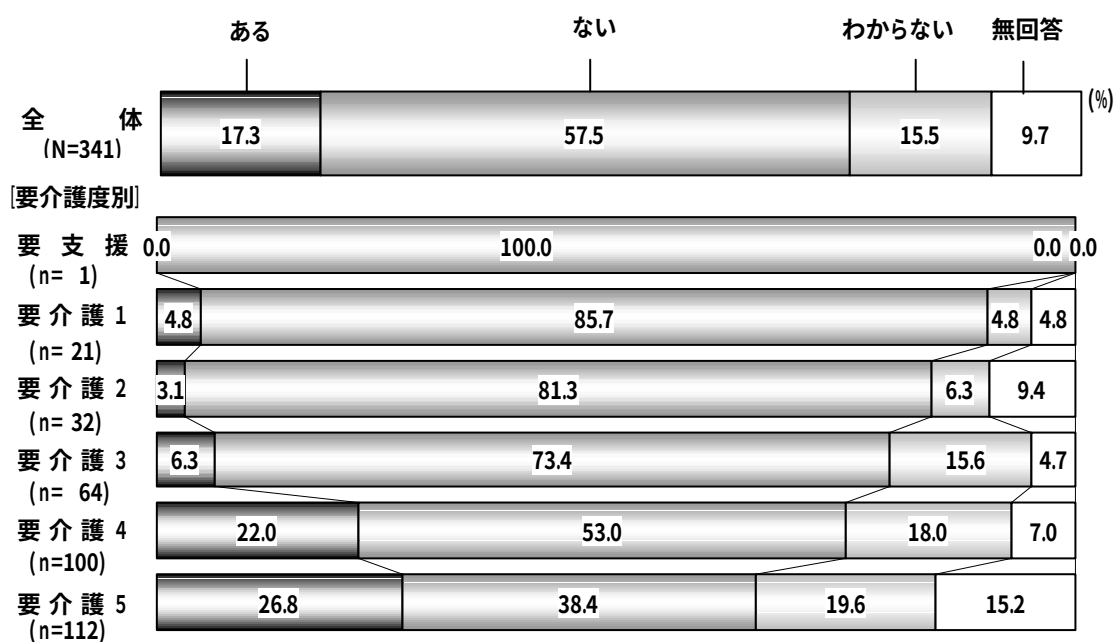


⑨ 身体拘束に関する現状（問 20）

身体拘束に関する現状については、「ない（57.5%）」が6割弱、「ある（17.3%）」が2割弱となっている。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにつれ「ない」割合が減り、代わりに「ある」が多くなる傾向がある。要介護5では「ある（26.8%）」が4分の1を上回っている（図表 3－4－9）。

図表 3－4－9 身体拘束に関する現状（全体、要介護度別）



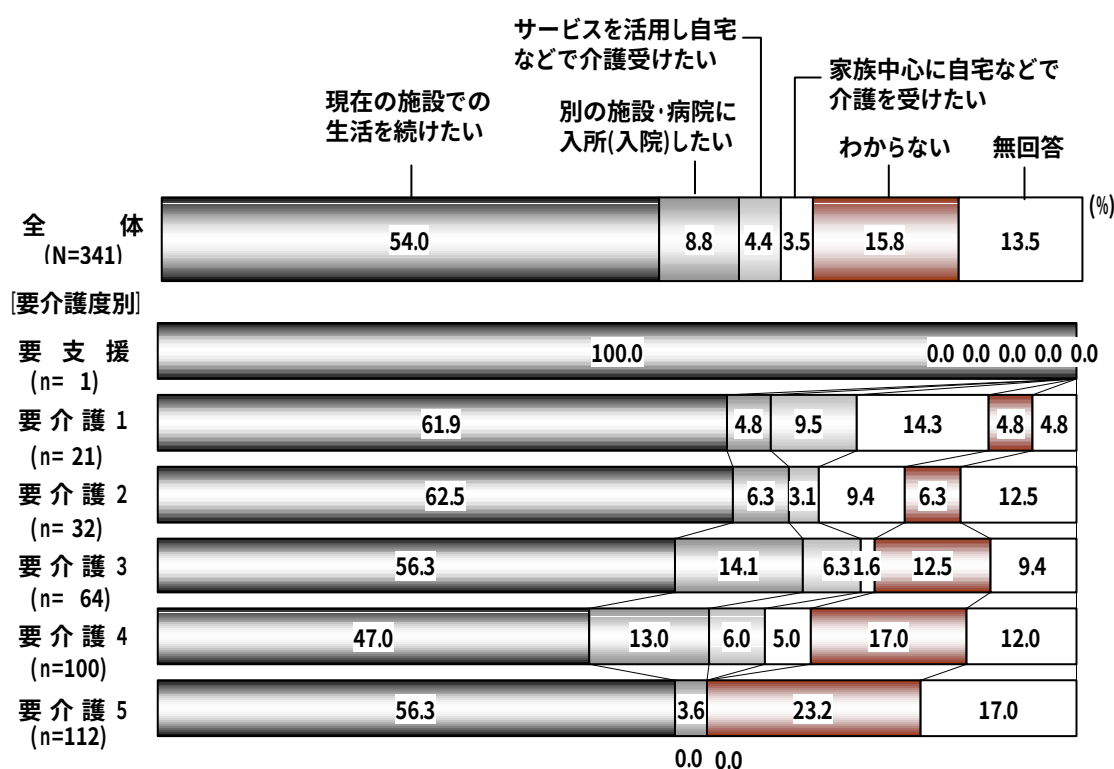
(5) 要望

① 今後希望する介護（問 21）

今後希望する介護については、「現在の施設での生活を続けたい（54.0%）」が半数以上を占め、次いで「わからない（15.8%）」、「別の施設・病院に入所（入院）したい（8.8%）」となっている。

要介護度別にみると、いずれの要介護度においても「現在の施設での生活を続けたい」が最も多くなっている。要介護3、要介護4では「別の施設・病院に入所（入院）したい」が、要介護4、要介護5では「わからない」が全体と比べて多い（図表3-5-1）。

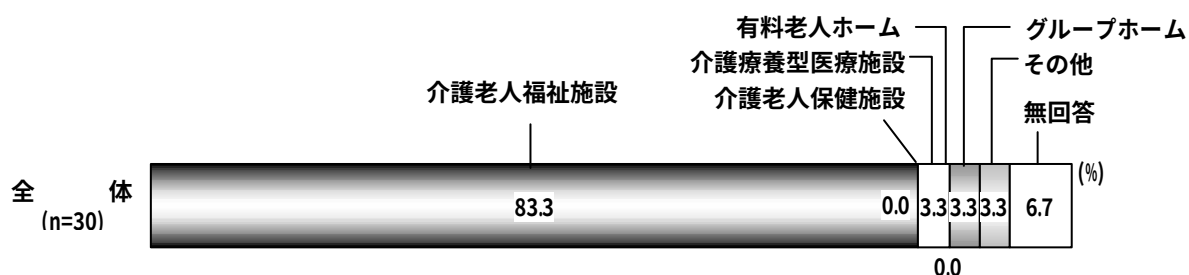
図表3-5-1 今後希望する介護（全体、要介護度別）



② 希望する別の施設（問 21－1）

別の施設・病院に入所（入院）したいと回答した場合、「介護老人福祉施設（83.3%）」を希望する割合が圧倒的に多く、8割以上を占めている（図表3－5－2）。

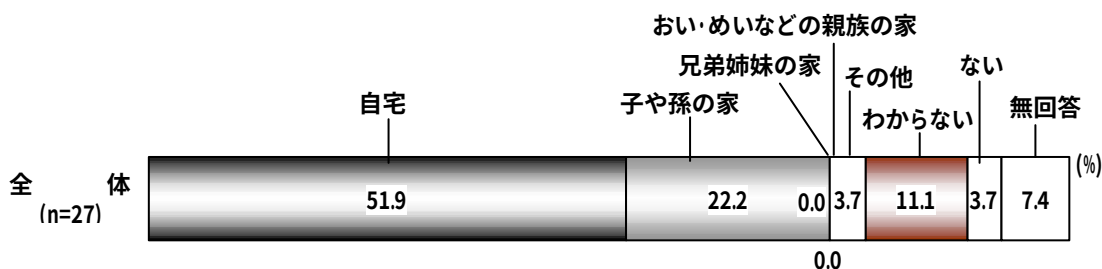
図表3－5－2 希望する別の施設
 <別の施設・病院に入所（入院）したいと回答した人>（全体）



③ 帰宅先（問 21－2）

サービスを活用し自宅などで介護を受けたい、または、家族中心に自宅などで介護を受けたいと回答した場合、施設・病院等を退所する際の帰宅先については、「自宅（51.9%）」が最も多く半数以上で、「子や孫の家（22.2%）」、「わからない（11.1%）」が続いている（図表3－5－3）。

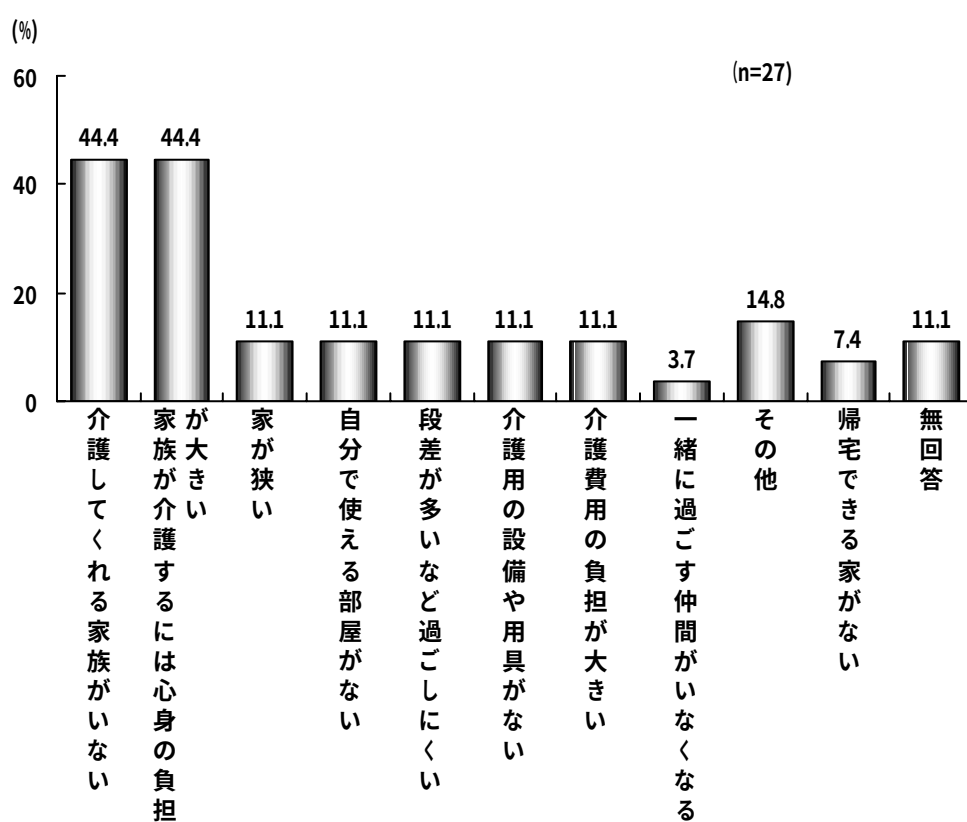
図表3－5－3 帰宅先
 <自宅などで介護を受けたいと回答した人>（全体）



④ 帰宅にあたっての問題点（問 21－3）

サービスを活用し自宅などで介護を受けたい、または、家族中心に自宅などで介護を受けたいと回答した場合、帰宅にあたっての問題点については、「介護してくれる家族がいない」と「家族が介護するには心身の負担が大きい」が同率 44.4%で最も多くなっている（図表 3－5－4）。

図表 3－5－4 帰宅にあたっての問題点
 <自宅で介護を受けたいと回答した人>（全体／複数回答）



⑤ 市への要望（問 22）

自由回答には全体で 50 件の記入があった。以下、主な意見を記載する。

<介護保険に対しての要望：15 件>

- ・ 文面ではなく介護の大変さを理解してほしい。経済的に余裕のある家庭ばかりでは無いという事も知ってほしいです。介護保険料を無駄に使わないでほしい。（老人保健施設、男性、80～84 歳）
- ・ 介護保険料は 40 歳以上からとられているのに、支払っている人に平等なサービスが与えられていないと思います。（介護療養型医療施設、女性、70～74 歳）
- ・ 介護している家族が、或いは同居の他の家族が倒れた場合に緊急時の介護システムの確立を望みます。介護者のケアにも力を入れてほしいです。（老人保健施設、女性、85～89 歳）

<施設不足について：10 件>

- ・ 特別養護老人ホームが少なく、申込んで何年も待つことになる。絶対数が不足していると思います。（入所施設不明、女性、65～69 歳）

<入所期間について：5 件>

- ・ 施設の職員の方々や利用者達と慣れてきたかなあとと思っていると 3 ヶ月で移動しなくてはなりません。もっと長く落ち着けたらと思います。施設職員の方々のご苦勞、本当に頭が下がります。（老人保健施設、男性、70～74 歳）

<人員不足：4 件>

- ・ 入居者に対する人数が少ない。勿論良い人も沢山居るのだが、質の悪いヘルパーの方が多々居るのも事実。（老人保健施設、女性、85～89 歳）

<アンケートについて：4 件>

- ・ このようなアンケートを実施し現状の把握に努めて頂こうとする姿勢には感謝いたしますが、施設に実際に見学に出向く等、もっと現実を知って頂きたいと感じます。（特別養護老人ホーム、女性、90 歳以上）

<情報・資料の提供：2 件>

- ・ 有料老人ホームの情報がほしい。（老人保健施設、女性、80～84 歳）

<感謝：4 件>

- ・ 高額介護費支給の件で毎月市役所の介護保険課にお世話になっており、その都度質問しますが、快く教えていただきとても感謝致しております。（介護療養型医療施設、男性、90 歳以上）

<その他：6件>

- ・ 住所は府中だが、入所しているのは他市にあたる。かようなケースは他にもあろうかと存じていますので、相互の市町村に於ける連携がスムーズに行くよう、行政側で仕組みづくりをお願い致したい。(特別養護老人ホーム、女性、85～89 歳)

(6) 心身の状況

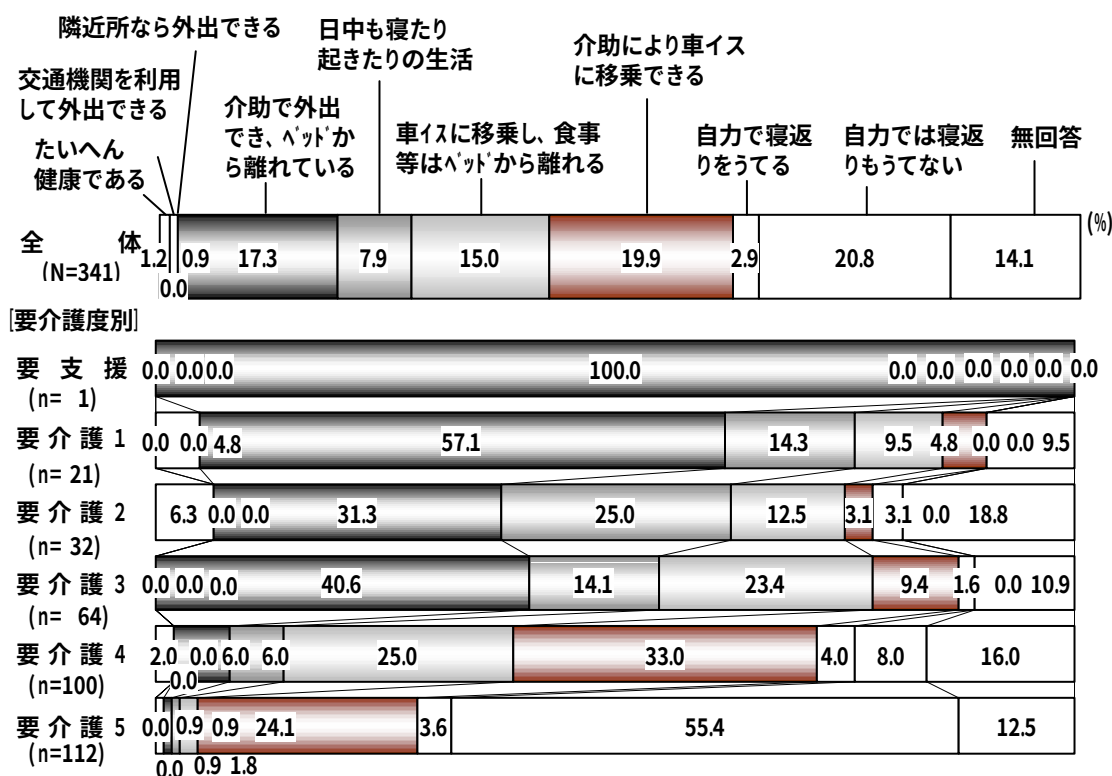
問 23 から問 25 までは家族または施設の担当者にたずねた。

① 健康状態 (問 23)

本人の健康状態は「自力では寝返りもうてない (20.8%)」が最も多く、次いで「介助により車イスに移乗できる (19.9%)」、「介助で外出でき、ベッドから離れている (17.3%)」の順となっている。

要介護度別にみると、要介護3までは「介助で外出でき、ベッドから離れている」が多数を占めている。要介護4では「介助により車イスに移乗できる (33.0%)」が、要介護5では「自力では寝返りもうてない (55.4%)」が最も多く、要介護度が重くなるにつれ、健康状態が悪くなっている (図表3-6-1)。

図表3-6-1 健康状態 (全体、要介護度別)

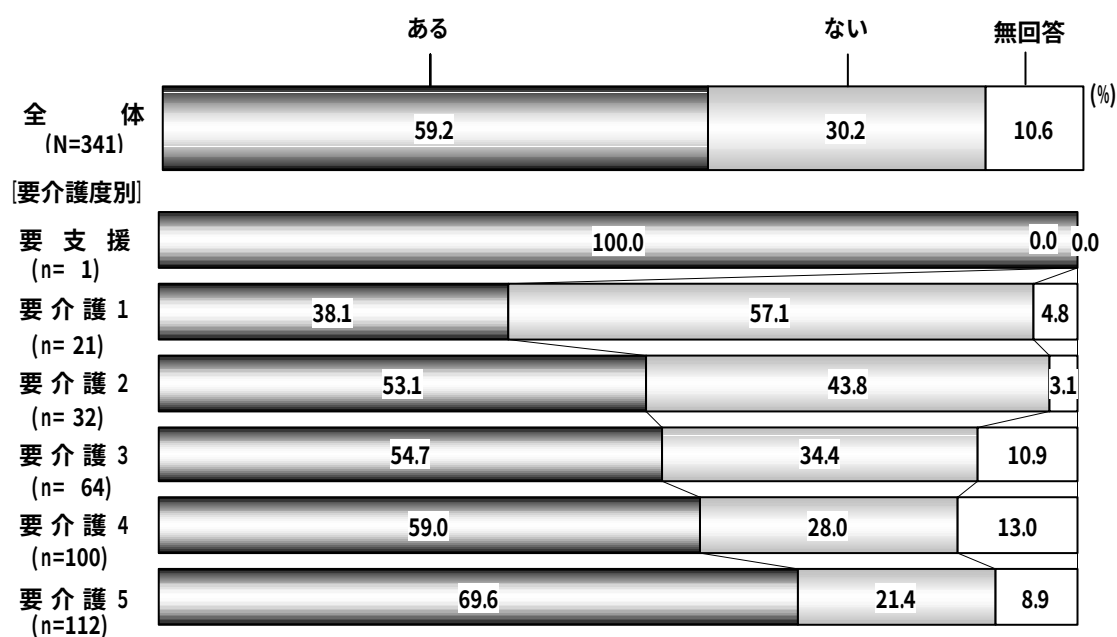


② 認知症の有無（問 24）

認知症と診断されたことがあるかたずねたところ、「ある（59.2%）」が6割、「ない（30.2%）」が3割となっている。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがって認知症と診断されたことが「ある」割合が高くなり、要介護5では69.6%にのぼる（図表3－6－2）。

図表3－6－2 認知症の有無（全体、要介護度別）

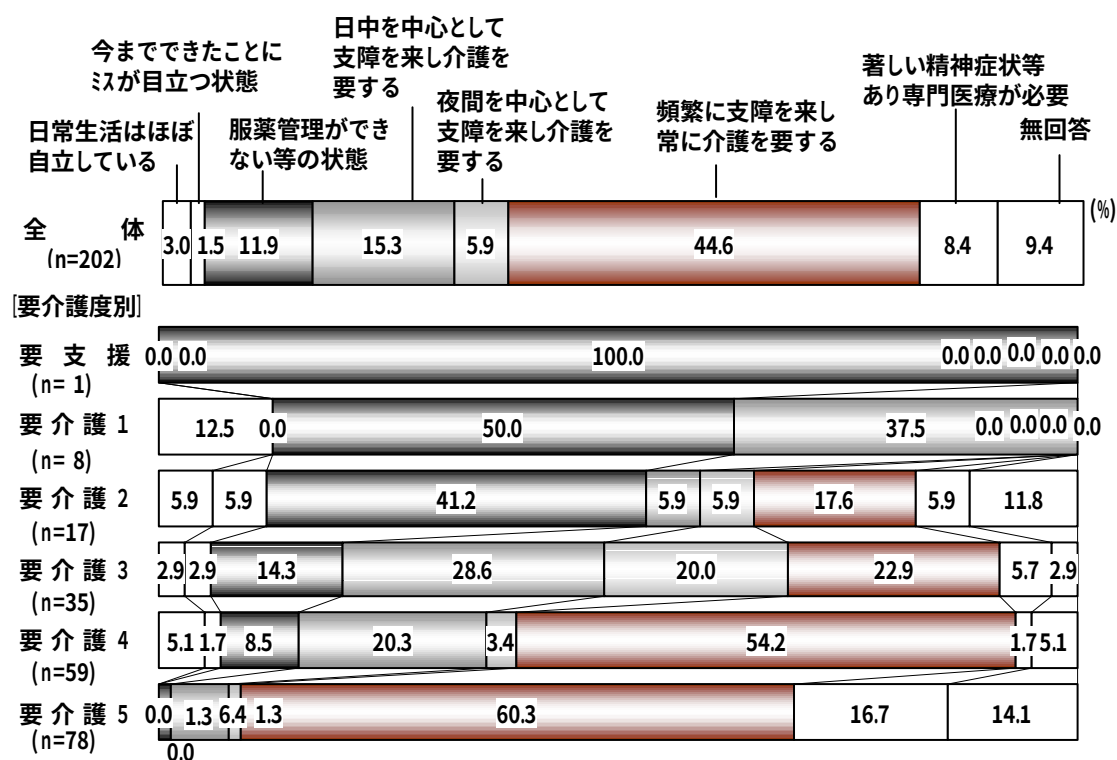


③ 症状（問24-1）

認知症と診断されたことがある場合の症状については、「頻繁に支障を来し常に介護を要する（44.6%）」が最も多く、「日中を中心として支障を来し介護を要する（15.3%）」、「服薬管理ができない等の状態（11.9%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護1、要介護2では「服薬管理ができない等の状態」が、要介護4、要介護5では「頻繁に支障を来し常に介護を要する」が最も多くなっている（図表3-6-3）。

図表3-6-3 症状
＜認知症と診断されたことがあると回答した人＞（全体、要介護度別）



④ 今後の生活の場所（問 25）

家族に対して、今後本人がどこで生活するのがよいかをたずねたところ、「施設や病院等に入所（入院）する（40.2%）」が群を抜いて多く、その他の回答は1割未満となっている。

要介護度別にみると、すべての要介護度において「施設や病院等に入所（入院）する」が最も多くなっている。要介護1では、「在宅サービスを受けながら自宅で生活する」、「家族介護を受けながら自宅で生活する」、「グループホームに入居する」（すべて14.3%）が、要介護2では「自宅近くの施設等利用して生活する（9.4%）」などが全体と比べて多くあげられている（図表3-6-4）。

図表3-6-4 今後の生活の場所（全体、要介護度別／複数回答）

